

第6次山形県教育振興計画によるこれまでの主な取り組みの評価と課題（平成27年度～平成30年度）

目指す人間像	主な取り組み	評価	主な課題
<p>「いのち」をつなぐ人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5教振から続く「いのちの教育」の実践を事例集にまとめ、本県独自の各種教材等に加え活用を促すなど、「いのちの教育」の更なる充実を図った。</li> <li>○「山形県いじめ防止基本方針」に基づき、学校におけるいじめの防止、積極的な認知と組織的な対応を推進。</li> <li>○平成28年3月に策定した「山形県人権教育推進方針」の普及と活用を図り、児童生徒の人権を尊重する意欲や態度、行動力等を育成。</li> <li>○いじめや不登校、問題行動の予防、早期発見、適切な対応を図るため、スクールカウンセラーや教育相談員、スクールソーシャルワーカー等の専門スタッフを学校に配置・派遣。</li> </ul>	<p>○児童生徒の自尊感情が向上し、また、規範意識も高い水準を保っており、望ましい傾向にある。</p> <p><b>自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合</b></p> <p><b>学校のきまりを守っている児童生徒の割合</b></p> <p>(出典:全国学力・学習状況調査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科化された道徳の指導方法や、6教振で新たに掲げられた「生命をつなぐ教育」等については、各校で試行錯誤を重ねている段階であり、今後更なる実践事例の収集・研究・普及を図ることが必要。</li> <li>○いじめの認知件数が増加を続けていることについて、学校が積極的に認知し対応している現れと評価し得る一方、未然防止対策の充実についても検討が必要。</li> <li>○スマートフォンの普及に伴い生徒等の間でもSNS上のコミュニケーションが急速に浸透していることから、いじめやトラブルの防止や早期発見のための対策を講じていくことが必要。</li> </ul>
<p>学び続ける人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成29年3月に策定した「第3次山形県読書推進計画」に基づく読書活動の推進、学校における健康教育・食育・体育授業の充実を図るなど、児童生徒の豊かな心と健やかな体を育成。</li> <li>○小中学校において、少人数学級編制を基盤とし、各校のアクションプランに基づき、基礎基本の定着や探究型学習の推進を図ることなどにより確かな学力を育成。</li> <li>○県内初の併設型中高一貫校である東桜学館中学校・高等学校の開校や、県立高等学校6校への探究科・普通科探究コースの設置など、これからの高等教育や学びのニーズに対応できる高等学校の再編整備を推進。</li> <li>○小学校では地域の産業や「働く」ことをテーマとした学習・実践活動、中学校・高等学校では地域産業界と連携した職場体験・インターンシップを実施するなど、体系的にキャリア教育を推進。</li> <li>○鶴岡市をモデル地区として英語指導の実践研究に取り組み、小中高における指導モデルを開発し普及を図るなど、グローバル化に対応した英語教育の充実を図った。</li> <li>○県立学校及び市町村立小学校へのタブレット端末等の整備を進めるとともに、教育センターにおいて講座を実施し教員のICT活用能力の向上を図るなど、ICTを活用した教育を推進。</li> <li>○特別支援学校において、教員の専門性の向上を図り、個々の能力に応じた学習指導や進路支援を充実させるとともに、リーフレットを作成し「インクルーシブ教育システム」の教育機関や県民等への周知を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読書好きな児童生徒の割合は向上し、豊かな心の育成に寄与。</li> <li>◇健やかな体の育成を図る一環として朝食摂取率の向上に向けて取り組んでいるが、改善に至っておらず、更なる取り組みが必要。</li> </ul> <p><b>読書が好きな児童生徒の割合</b></p> <p><b>毎日朝食を食べている児童生徒の割合</b></p> <p>(出典:全国学力・学習状況調査)</p> <p>◇全国学力・学習状況調査の結果においては、全国との差が概ね縮小傾向にあるものの、全国平均に至らない科目が複数あり、学力育成面に課題が残る。</p> <p><b>全国学力・学習状況調査における正答率の全国平均との差</b></p> <p>【小6】</p> <p>【中3】</p> <p>(出典:全国学力・学習状況調査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒が学校と家庭における適切な学習サイクルを確立する基盤として、学校と家庭が連携し、朝食摂取を含む望ましい生活習慣の定着を図っていくことが必要。</li> <li>○超スマート社会（Society5.0）の到来を見据え、予測困難な社会を生き抜く力として、主体性、協調性、創造力、外国語によるコミュニケーション能力等を探究型学習等を通じて効果的に育成していくことが必要。</li> <li>○教育センターや協力校・重点校による探究型学習に係る実践研究等の成果の他校への普及・促進を更に進め、授業改善を推進していくことが必要。</li> <li>○今後の探究型学習や情報技術、プログラミング教育における活用、更にはICTを活用した学びの一層の高度化や革新を見据え、学校のICT環境整備を一層推進するとともに、引き続き教員のICT活用能力・指導力の向上を図ることが必要。</li> <li>○特別支援教育においては、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成率を更に高めるとともに、学校間での円滑な引継ぎ、関係機関との共有を図ることなどにより、切れ目のない支援体制を構築していくことが必要。</li> <li>○学校の持続的運営を可能とし、質の高い教育を提供していくことと一体のものとして、学校における働き方改革を更に推進していくことが必要。</li> </ul>
<p>地域とつながる人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成27年度に副読本「郷土 Yamagata」を作成し全中学校に配布するとともに、平成28年度からは郷土に関する学びや実践の成果を発信・共有する場として「郷土 Yamagata ふるさと探究コンテスト」を開催するなど、児童生徒の郷土についての学びを促進。</li> <li>○地域に残る有形・無形の文化財とともに、地域に伝わる伝統文化や民俗芸能を「山形の宝」として保存・活用・発信する活動を支援。</li> <li>○県民に元気と活力を与えるものとして、平成29年夏の南東北インターハイを目指したジュニア層の育成強化、2018年平昌オリンピック、2020年東京オリンピックで活躍できるトップアスリートの育成など、競技スポーツの振興に取り組んだ。（南東北インターハイでは、歴代2位となる入賞数60という成績を収めた。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の行事に参加している児童生徒の割合は伸び悩んでいるが、地域の役に立ちたいと考える児童生徒の割合は増えており、郷土愛の醸成に一定の成果。</li> </ul> <p><b>地域の行事に参加している児童生徒の割合</b></p> <p><b>地域や社会をよくするために何をすべきか考える児童生徒の割合</b></p> <p>(出典:全国学力・学習状況調査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新学習指導要領に基づき教科指導内容が充実し教育課程に余裕がなくなる中、学校において郷土に関する教育を効果的・効率的に実施するためのカリキュラム・マネジメントや地域との連携を促進していくことが必要。</li> <li>○本県が誇るユネスコ無形文化遺産、日本遺産、「山形の宝」などの文化財を、郷土に関する学びや地域の活性化に効果的に活用していくことが必要。</li> <li>○競技スポーツにおいては、2020年東京オリンピックでのメダリスト輩出などに向け引き続き選手の育成・強化を図る一方で、スポーツ医・科学の推進やスポーツにおけるインテグリティの醸成を進めながら、健全なアスリートの育成を図っていくことが必要。</li> <li>○本県の競技力向上を図るとともに、地方創生につなげる観点からも、本県出身アスリートの県内回帰・定着を促進することが必要。</li> </ul>